



東京で行われた授賞式に参列した大久保氏

大久保 琢磨氏

ひこさんがわ夢の会 会長

平成18年5月22日「ひこさんがわ夢の会」会長、大久保琢磨さんは、九州から唯一の推薦を受け、(財)日本河川協会から本年度の河川功労者として受賞されました。会を結成して10年目。会員75名。月1回の清掃活動と、

河川功労者賞おめでとう

多くの人に川に関心を持ってもらおうと企画した「ひこさんがわ夢コンサート」を始め、サケの稚魚の放流、河川保護の看板設置、小学校・中学校の総合学習の講師など、積極的にかかわり身近な川づくりに関わってこられました。

2人から始まった清掃活動

平成9年2月、彦山川の赤池、上野(あがの)下流の自然型護岸工事が完成。しかし護岸はきれいに整備されたものの、たぐさんのゴミが散乱。そのことに心を痛めた大久保さんは同じ思いをもった平野さんと2人で、河川清掃を始めた。

実は、大久保さんは退職されるまで福岡県土木事務所に勤務されていました。そして



仕事柄、河川の工事をたくさんされてきました。が、その多くはコンクリートで固められた3面張りの護岸工事で、「これでは自然がこわされ、生きものの達がすめない」と心を痛められたそうです。その当時の河川工事では、治水が主な目的のため当たり前のことに罪滅ぼしをしたい」という思いが今日の活動につながったと語っていました。

現在、大久保さんは「たがわふるさと川づくり交流会」会長、NPO法人遠賀川流域住民の会理事として、遠賀川流域全体を視野に入れ、それぞれの会と連携して積極的に活動されています。



福智山を背に鯉のぼりが優雅に泳ぐ姿はすっかり赤池の風物となっている。

整備された水辺空間を、もっと住民に親しまれるようにと、毎年、様々な取り組みが行われている。そして、いつまでもきれいなこと、会員の皆さんの河川敷の清掃活動が毎月行われている。



遠賀川源流下草刈り開催

遠賀川源流の森づくり推進会議主催

「遠賀川源流の森づくり推進会議」（森裕治会長）は、これまで、遠賀川源流部を中心に人工林（杉や檜）や、台風などで被害を受け荒廃した山に、保水力や河川浄化機能を高めるためにカシやケヤキなどの落葉樹の苗木を3月に植樹、8月には植樹した木々が元気に育つよう、下草刈りや枝打ちを行ってきた。

遠賀川の源流に近い嘉麻市桑野の山林で、8月6日（日）約200名のボランティアが下草刈りに汗を流しました。同会は設立10年目にあたる今年度、水源功労者として、国土交通省から表彰されました。



表彰状を手に報告をしている森会長と松岡嘉麻市長



飯塚高校の野球部の皆さん



急な斜面に入っている作業「毎年木が大きくなっているのを見るのも楽しみです」と話される参加者。来年もお会いしましょう。



北九州市水道局の職員と住民の皆さんがバスに乗って参加

当日、森会長より、松岡嘉麻市長やボランティアのみなさんに、水源功労者の受賞の喜びが報告された。「設立10年目の受賞で今後の励みになります。多くの人に支えられての受賞です。これからもたくさんの方に参加してもらって自然環境を考えるきっかけにしてもらいたい」と話された。

犬鳴川

犬鳴川河川公園は宮若市役所の前を流れる犬鳴川の堤防に、約850mにわたって広がっている。公園には桜・つつじなどが1万本植えられている。花壇は10カ所。細長い公園の敷地をいかしたせせらぎ水路が整備されている。芝生をふんだんに使った芝生公園。そして、東屋やトイレが設備され、ゆっくりと散歩できる公園である。いたるところに住民の意見が取り入れられている。



真夏、鞍手竜徳高校の生徒の皆さんが花壇の手入れをされている。



定例の作業日、手際よく作業が行われている。

ここには小さく可愛い魚と、大きなコイが悠々と泳いでいるよ。



秋はやっぱり、「芋煮会」。たくさんの方が集います。今年は残念ながら、雨天中止になりました。

犬鳴川みどりの会



朝日が昇ると共に散歩をする人が増えてくる。土手の彼岸花もつぼみをつけている。歩道と並行して小川が流れ、一面に芝生が敷き詰められている。春には満開の桜並木が訪れる人々をほっとさせてくれる。

宮若市から直方市を流れ、遠賀川に合流する犬鳴川、その中流域、宮田を中心に「犬鳴川みどりの会」の活動の拠点があります。それが「犬鳴川河川公園」です。住民と行政が協力して創りあげてきた手づくりの公園は今年で11年目を迎えました。

自分達の町は自分達で作る

「犬鳴川みどりの会」（篠栗一義会長）の合言葉です。

9月24日（日）毎月1回の除草作業が行われました。朝7時に三三五と人々が集まり、それぞれの機械を使って作業が始まりました。機械作業の人達です。

8時、また、人々が集まりほうきとゴミ袋を持って、手際よく、刈り取られた芝生や木々を集め、ゴミ袋に入れています。手作業をする人達です。安全性を考慮して二つのグループに分かれて、作業をされるということでした。

「この風景を維持するためには、毎月の除草作業は欠かせない」と言われます。暑い夏場は6時から作業が行われます。「みんなで作り上げた公園ですよ。この景色を子ども達に残してあげたいですね」



機械を使っての作業が行われている

と作業しながら話されました。高齢者も多くなり作業も大変になっていくそうですが、先月は鞍手竜徳高校の生徒の皆さんが、公園の除草作業をされました。若い人達にも会の精神が伝わっていると感じました。

会の発足

犬鳴川河畔の散策を楽しむ人達が「ここにさくらの木が植えられていたらいね」といった会話が、始まりといわれています。塩川秀幸氏（初代みどりの会会長）によって、そうした住民の声が町（旧宮田町）に届けられました。

町でも旧産炭地からの脱却を目指して町全体の活性化をまちづくりで図ろうとしていました。平成7年10月、町制70周年事業として「犬鳴川河川公園整備計画」の検討が始められ、町は行政主導の事業ではなく、住民の声をいかした「犬鳴川河川公

園」の検討を始めました。そして町をオブザーバーとする住民のボランティア団体「犬鳴川みどりの会」が発足しました。

犬鳴川みどりの会の活動

犬鳴川みどりの会の会員は現在約300人。毎月1回の河川公園の除草作業や公園の維持管理を中心に、イベントの開催や会報を発行しています。また、市と協力して公園計画立案などを行っています。

会の目的は「公園を通してまちづくりに参加していくこと。行政職員と一緒に汗を流し、意見を交換し、お互いに理解を深めて、それを今後のまちづくりにつなげていくこと」として活動されています。

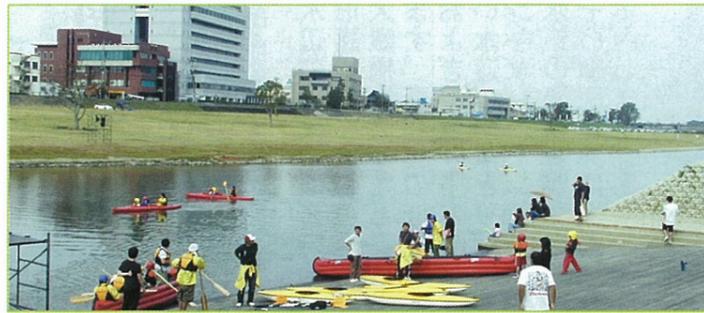
市のシンボルとなった公園

結成11年目を迎え、町から市のシンボルになっている「犬鳴川河川公園」。それを守り続けた「犬鳴川みどりの会」の皆さん。これまでの取り組みが高く評価され、数々の賞を受賞されています。住民の願いと、会員の地道な作業、そして汗の成果だといえます。

遠賀川わくわく夢フェスタ

10月22日(日) 直方リバーサイドパーク

遠賀川わくわく夢フェスタ実行委員会主催



生まれ変わった河川敷。敷き詰められた芝生。水も音も心地よく聞こえてくる。

今年、遠賀川の川づくりが100周年を迎え、遠賀川水辺館も開館から2年が経過。また、リバーサイドパークも新しい親水空間として出来上がり、みんなでお祝いしようとして「遠賀川わくわく夢フェスタ」が開催されました。河川敷ではカヌー体験やペーロン大会・勾玉作り・坂道ごころ体験と子どもも大人も楽しく遊びました。子ども達によって「自然がいっぱいのきれいな遠賀川になるようにみんなでよくしていきましょう」と遠賀川「夢」宣言が宣言されました。



きれいにできた勾玉作り。



大玉転がし、大変!



水辺館でゆっくりと。



遠賀川「夢」宣言を読む子ども達。



大和幼稚園の園児による鼓笛隊、遠賀川に響き渡りました。



遠賀川大ウルトラクイズ。○かな×かな?むずかしい。

ペーロン大会 成績発表

順位	
優勝	直方市役所
準優勝	国土交通省
3位	つげさ
4位	小竹龍舞龍舞会
5位	直子連



10人の意気がそろわないと真直ぐ進まないEボート。2回の合計タイムで競います。



魚釣り大会

宮吉区遠賀川をきれいにする会主催

10月8日(日) 嘉麻市宮野小学校近くの川でさおを使っての魚釣り大会を開催。たくさん魚を釣って、みんなで美味しく食べました。



ほっぺも落ちるほど



魚とり大会

10月15日(日) 嘉麻市大隈でI LOVE遠賀川in嘉穂が開催され、清掃活動終了後、子ども達は、川の上流をせき止め、水かさが少なくなった川で魚とり。大きなコイもつかまえました。

I LOVE遠賀川 in 嘉穂実行委員会主催



笹尾川水辺の楽校で遊ぼう

10月8日(日) 北九州市八幡西区大字楠橋・芝谷橋下

笹尾川水辺の楽校運営協議会主催



カヌーはやっぱり楽しいです



草笛を吹きました



笹舟ができました



なんという植物かな?



カメさんです

笹尾川水辺の楽校では当日、150人の子ども達や大人が参加しました。カヌーに乗ったり、写生大会や水生生物の調査をしたり、また、岸辺に生えている植物の名前や特長を学んだり、草笛を吹いたり、笹舟を作って浮かべたりと、子ども達はとても楽しく川と遊んでいました。楽しいことがたくさん見つかる笹尾川水辺の楽校でした。

川と遊ぶ



飯塚市を出発、北九州市八幡西区木屋瀬までの約21kmの川下りでタイムを競う遠賀川川下り大会

夏、秋、スポーツ大会や魚釣りなど、遠賀川を舞台に各団体によって様々な取り組みが展開され、川に近づき、水に触れ、川と遊ぶことが、遠賀川がかけがえのない私たちの川であると思ってい

いかだ部門	順位	タイム
優勝	GCN	2:32:18
準優勝	田川市立病院	2:32:45
3位	長崎大学医学部	2:37:18
4位	鉄んで号	2:41:35
5位	徳波消防第6分団	2:44:50
6位	TAKADA研伴センター	2:47:09
7位	田川市立病院	2:48:37
8位	オーシャンズ13	2:51:43
9位	福智町役場	2:56:45
10位	カミショウ実業号	2:58:25
舟部門		
優勝	あうあう重工	2:07:40
準優勝	ジャブジャブ会	2:12:04
3位	飯塚青年会議所	2:33:47
4位	ハッケージヤ・コア	3:09:47
5位	LAZYS 艇手	3:12:53

いかだレース大会では日本で一番長いコース、途中4カ所の堰では、いかだや舟を河原に引き上げて迂回しながらゴールを目指した。この大会を運営している「実行委員会」では堰をはじめ、安全にレースが展開できるように100名近くのボランティアが大会を支えている。同会の太田実行委員長は「参加チームは、優勝を目指してがんばるチームや、楽しみながら完漕を目標にしているチームなど。この大会を通して遠賀川を知ってもらえる良い機会だと思っています」と話された。来年7月28日には遠賀川で「全日本いかだサミット」が開催されるという。

7月30日(日) 57チーム 507人が参加



遠賀川川下り大会 実行委員会主催

第27回遠賀川川下り大会



最年長者の皆川さん。古希を仲間と祝っての出場。ベテランの技がさえます。

順位	
優勝	ディーフィンバクトAチーム
準優勝	カヌー愛好会
3位	ディーフィンバクトBチーム
4位	混成Aチーム
5位	混成Bチーム

戦い終わってみんなで清掃作業、その後美味しい豚汁をみんなで食べました。



当初10チーム出場の予定が、台風のため延期となった当日、夏休みも終了、学校行事等と重なり5チームの出場となった。しかし、選手達はこの日を待ちかね、優勝をねらって意気揚々と出番を待っていた。

開会式では、同会の窪山理事長が「多くの人に川に親しんでもらい、みんなで遠賀川をきれいにしましょう」と挨拶。宮若市の宮田南小学校5年生、林航君(11歳)が「正々堂々と競技することを誓います」と力強く選手宣誓をしました。

9月3日(日) 飯塚市川島 NPO法人 遠賀川流域住民の会主催

第3回カヌー駆伝大会



草取りに役買ったヤギ君?子ども達と交流です。



靴がすべらないようにと、靴になわを巻きつける方法を習っている子ども達

すべりやすい岩肌につきまわり、慎重に進む。

7月28日(日) 嘉麻市遠賀川源流

第4回遠賀川流域児童体験交流会

遠賀川源流の森づくり 推進会議主催

「未来を担う子ども達にきれいな遠賀川を残したい!」このような思いから同会では毎年子ども達を対象に取り組みを行っている。今年度は、合併して嘉麻市となった子ども達を対象に沢登りの児童体験交流会が開催された。

遠賀川散歩道

嘉麻市

「水辺の楽校」とは、子ども達が安心して川で（楽しみ）ながら（学習）ができる場所（学校）にしたいということから名づけられました。「嘉穂水辺の楽校」は平成十一年から地元旧嘉穂町・上西郷地区の皆さんと協議しながら作られました。

「嘉穂水辺の楽校」は嘉麻市嘉穂（旧嘉穂町）大隈の交差点から大隈橋を渡ったところにあります。春、鯉のぼりが空高くおよぎ、夏、子ども達の楽しい水遊びや魚とり、秋のクリーンキャンペーンなど、「嘉穂水辺の楽校」ができて一年、その様子と共に大隈周辺を御案内します。

嘉穂水辺の楽校の子ども達



2005年10月29日、地元住民や関係者が出席して、嘉穂水辺の楽校の開校式が開催されました。

鯉のぼり



小さな子ども達が遊べる「せせらぎ水路」



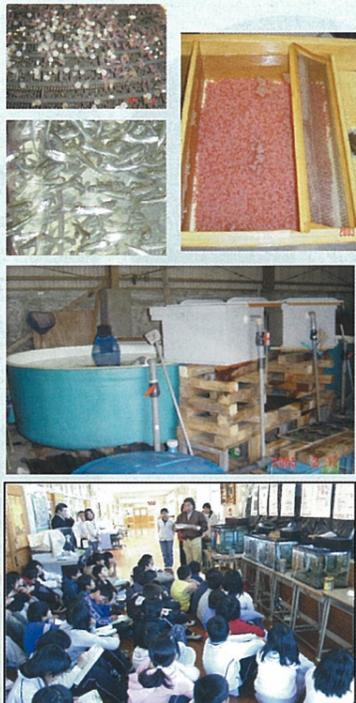
西岸を安全に行き来できる飛び舟の「とんとん橋」



夏 魚とり・水遊び

追い込み漁
小さい魚がいっぱい取れました。ドジョウも取れました。魚は小さいので後で川に放してあげました。

鮭のふ化・飼育場

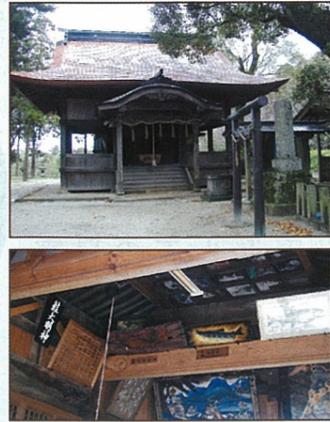


ふ化・飼育アドバイザーの青木先生と足白小学校の児童のみなさん。

毎年12月13日、献鮭祭の日にサケの受精卵をいただき、ふ化・飼育を行う。3月になって5~7cmに育った稚魚を遠賀川流域各地で放流します。

サケは海水温の低い日本海から北海道、アラスカ、ベーリング海を回遊して4年後には、生まれ育ったふるさとの川に帰ってきます。

鮭神社



内部

奈良時代（1200年前）に建てられた全国で唯一の「鮭神社」です。境内には鮭塚があり、毎年12月13日に、のぼってきた鮭を神の使いとして大切に、豊作を祈り、この鮭塚に埋める「献鮭祭」が行われます。石炭の繁栄で一時絶えていた鮭の遡上も、近年遠賀川中流まで確認されたことをきっかけに、住民によって「遠賀川に鮭を呼び戻す会」が結成。12月からふ化・飼育を行い、3月に流域各地で放流する活動が行われていました。平成15年から「NPO法人遠賀川流域住民の会」がその思いを引き継いで行っています。

豊臣秀吉の残した陣羽織

（国の重要文化財指定）

九州の島津征伐の折、島津氏と結んでいた秋月氏が古処山に立てこもった時、大隈の農民達は秀吉に協力して、一夜で城を作り、秋月氏が降参。その感謝の印として陣羽織が秀吉から贈られました。



ひと鎌堀



水は今も昔も大変貴重なものです。水をめぐって遠賀川流域には様々な物語が生まれています。

江戸時代、上西郷村に正人（しょうじん）という医者があり、水不足に悩む農民のために嘉麻川の水を引こうと、黒田藩に願い出て「鎌の幅の分だけ」という約束で水路を掘り始めました。ところが正人の作った鎌は幅が1mもあるものだったので、立派な水路ができあがりました。が、正人とその家族は何者かによって殺されてしまいました。村人は正人が殺された石橋を墓としてずっと守っていたという伝説があります。

今でも長田用水樋管のあたりから「正人さん」の「ひと鎌堀」は流れてその墓も石橋天神として残っているという。

遠賀川源流

嘉麻峠の近くに「遠賀川源流公園」があり、そこから300m歩くと遠賀川の源流につきます。

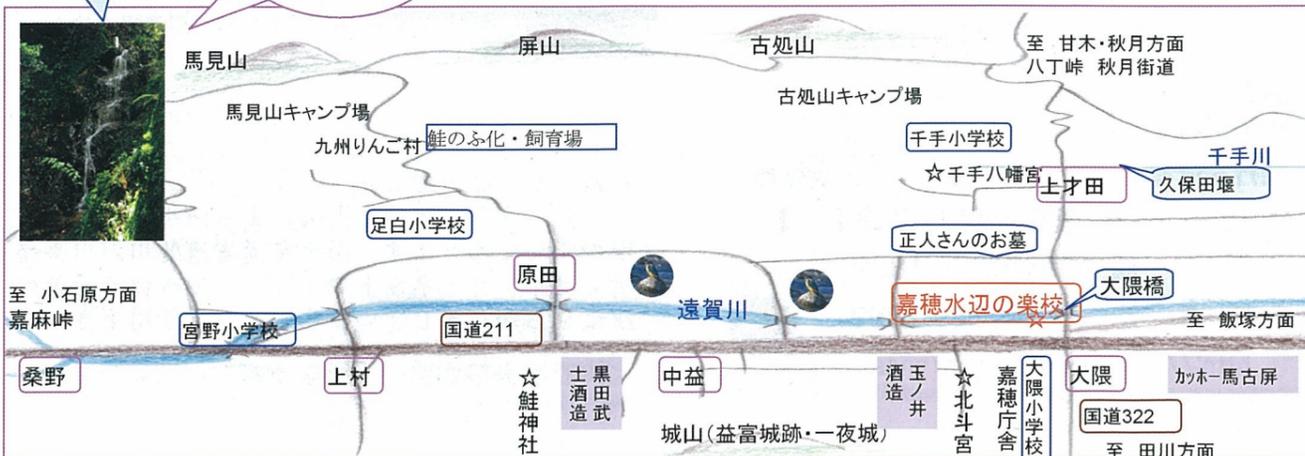


遠賀川源流の森づくり植樹、下草刈り開催地



カワセミ

大隈の酒造黒田武士のある中益の火渡辺りや、ひと鎌堀伝説を伝える水辺でカワセミを見ることが出来る。ヤマセミも西の郷上流の河辺の柳などに止まっていることもある。上手をゆっくり、野鳥をおびやかさないように歩くと良い。益富城址（しろあと）付近の湿地のあるため池を調査した時は、カワセミもヤマセミもいて、私におどろいて、遠くフルーツ共和国辺りへ目指し美しい軌跡を引きながら飛び去った。（松尾節朗）



10月15日（日）I LOVE遠賀川in嘉穂が開催され、上流から下流域までみんなで清掃活動をしました。



秋 クリーンキャンペーン

遠賀川の生きものたち



カワセミ

かわせみの影どこまでも冬、磧

節朗

水辺の（飛ぶ宝石）と一般に呼ばれていて、河川・ため池・ダム・用水路などの、周辺の杭（くい）やかれ枝・石垣・せきの端等に、ちよこんと止まり、えさとする小魚の浮上や近寄るところを根気よく待っている。背中が光沢のあるコバルトブルーで腹部がオレンジ色という色彩あざやかな野鳥である。

大きさは体長17cmで、スズメよりもやや大きく、しっぽが短いので愛らしい。移動する時、水面すれすれに直線的に飛ぶ。えさをとる時は、杭から垂直に水面に飛び込むか、ホバリングしながら垂直に水中に飛び込み、4cmもある太くて長くちびで魚をくわえて元の杭の上にもどって食べる。

飛びながら「チイー・チチチイー」などとか細く鳴く。

春先には雄は雌に捕らえた魚をプレゼントして求愛し、雌雄共同で水辺の赤土のがけに長い横穴の巣穴をほり、営巣する。水辺の護岸（ごがん）がコンクリートで完備されてカワセミの住宅難はますます加速し、かなり遠距離の巣穴も観察されているのが現状である。

日本ではアカショウビン・ヤマセミ・ヤマショウビンなどが同種として観察されているが、世界では80種ぐらいが存在している。

また、古くは古事記にもカワセミは登場する。そこでは「ソニドリの子青き御衣をまつぶさに・・・」という八千矛神（大國主の命）の妃の須勢理毘売命（スセリヒメ）の嫉妬の歌謡に詠まれている。やはり、青色が美しいのでその色を枕詞として使われているのである。探鳥会でもカワセミをテーマに開催すればその熱烈なファンがたくさん参加する。アカショウビンやヤマセミも同じファンがいる。

日本野鳥の会 筑豊支部
松尾節朗

雨量・水位等の情報提供

国土交通省のレーダでとらえられた降雨量を表示（10分更新）しています。

ダムの貯水状況や放流通知をお知らせしています。

観測所ごとの水位をグラフで表示しています。

川の防災情報をお知らせしています。ぜひ活用下さい。

インターネット <http://www.river.go.jp>
iモード <http://i.river.go.jp/>

遠賀川流域だより

遠賀川流域だよりは、流域に住む住民の皆さんの情報を元に作成しています。

発行責任者 国土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949)22-1830

FAX (0949)22-2859

<http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>



川は生きている!と思った



声

短時間で上流に降った大量の雨が、あっという間に中流域の田川市番田町（田川市伊田川わたり神幸祭の会場）に大量に流れ、河川駐車場を飲み込みました。

今回の災害は、上流の山間部に局地的に降った大雨が中流域に大量に流れ、短時間のうちに増水したことが原因でした。

このような局地的な大雨による河川の増水は、増加傾向にあります。国土交通省遠賀川河川事務所ではインターネットやiモードで水位や雨量の情報をお知らせしています。是非ご利用下さい。

<声ではみなさまの投稿をお持ちしています>